

売上収益

2,590億円 前期比 **61.6%増**

長期収載品は後発医薬品使用促進策の影響による売上減少が予想されますが、「オプジーボ点滴静注」の売上が大きく増加する見込みであり、また「フォーガ錠」や「オレンシア皮下注」などの主要新製品の売上拡大を見込んでおり、通期の売上収益は、前期比987億円(61.6%)増の2,590億円を予想しています。

営業利益

725億円 前期比 **137.6%増**

売上原価は「オプジーボ点滴静注」の売上増に伴い増加する見込みです。研究開発費は経費の効率的な活用を進めるものの、オプジーボ関連費用が増加する見込みです。また、販売費及び一般管理費もオプジーボ関連の活動経費や安全性情報管理に関わる経費の増加が見込まれることから、通期の営業利益は、前期比420億円(137.6%)増の725億円を予想しています。

税引前当期利益

750億円 前期比 **125.4%増**

低金利が長期化しており、金融収支を前期比3億円減少の25億円と見込んでおり、通期の税引前当期利益は、前期比417億円(125.4%)増の750億円を予想しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益

558億円 前期比 **123.4%増**

税引前当期利益の増加に伴い法人税等の税金費用の増加が見込まれます。その結果、通期の親会社所有者帰属分の当期利益は、前期比308億円(123.4%)増の558億円を予想しています。